



道の駅

「道の駅」とは

» 目的

- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興や安全の確保に寄与

» 3つの機能

休憩機能

24時間、
無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

道路情報、地域の観光情報、
緊急医療情報等を提供

地域連携機能

文化教養施設、観光レクリエーション施設
などの地域振興施設



※災害時は、防災機能を発現

全国「道の駅」登録数: 1,213駅
四国「道の駅」登録数: 90駅
(令和6年2月16日時点)



「道の駅」第3ステージ

I 新たなコンセプト

第1ステージ(1993年～)
『通過する道路利用者の
サービス提供の場』

第2ステージ(2013年～)
『道の駅自体が目的地』

1,160駅に展開

全国法人の始動

第3ステージ(2020～2025年)

『地方創生・観光を加速する拠点』
+
ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献

新たな「道の駅」ネットワーク

多様な主体との連携

民間企業・大学・高等
専門学校・JNTO・海外
団体・道の駅同士の連携
・道の駅と観光資源の連携
・道の駅と防災機関の連携
・道の駅と交通事業者の連携
・道の駅と農林漁業者の連携
・道の駅と福祉団体の連携

「2025年」に目指す3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

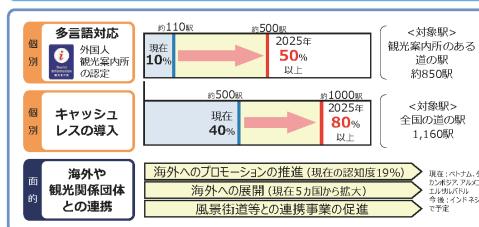
2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点へ

3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

II 「2025年」に目指す3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

- 海外へのプロモーションやプロジェクト展開を国が推進し、「道の駅」は世界ブランドに。多くの外国人が新たなインバウンド観光拠点となる道の駅を目指す日本へ。
- 「道の駅」では、国際連絡会の支援を受けて、多言語対応やキャッシュレスなど基本サービスを用意。地域の文化体験など地元ぐるみでの受入環境も充実。周辺の「道の駅」や観光施設、風景街道などが連携して周遊観光ルートを創出。
- バス、自転車、レンタカーなど周遊の交通拠点としての役割も發揮し、日本の魅力を世界に発信。多様な交通手段と地域、観光施設情報を組み合わせて提供されるサービス(観光MaaS)の導入も始まり移動が活発化。



2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

- 広域的な防災機能を担うため、国等の支援を受けてハード・ソフト対策を強化した「防災道の駅」が新たに導入。地域住民や道路利用者、外国人観光客も含め、他の防災施設と連携しながら安全・安心な場を提供。
- 各「道の駅」でも、地域の防災計画に基づいて、BCPの策定、防災訓練など災害時の機能確保に向けた準備を着実に実施。
- これら「道の駅」の活動情報は、災害時に国、自治体、連絡会等でいち早く共有。関係機関の支援も受けながら、道の駅が地域の復旧・復興の拠点として貢献。



3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

- 「道の駅」を舞台に、地域の課題解決や民間とタイアップした「地域活性化プロジェクト」が、ボランティアを含めた様々な団体との協働や、全国連絡会等が橋渡しを行なうなど、あらゆる世代が「道の駅」で活躍するための環境を提供。
- 地域の子育てを応援する施設の併設や、高齢者の生活の足を確保するための自動運転サービスのターミナルとなるなど、あらゆる世代が「道の駅」で活躍するための環境を提供。
- 多くの学生達が、「道の駅」でインターンとして業務を経験したり、実習に訪れ、地域の特産品をいかいた商品開発に取り組み、全国コンテスト優勝を目指す奮闘。



★: 全国モデル「道の駅」
★: 特定テーマ型モデル「道の駅」
●: 重点「道の駅」
△: 重点「道の駅」候補
◆: 「防災道の駅」

全国モデル「道の駅」
国土交通大臣選定 6駅 1駅
地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの
全国的なモデルとして成果を広く周知するとともに、さらなる機能発揮を重点支援

特定テーマ型モデル「道の駅」
国土交通大臣認定 13駅 2駅
特定のテーマについて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの
全国の「道の駅」からの視察及び講師の要請に対応する等、「道の駅」の質的向上に貢献

重点「道の駅」
国土交通大臣選定 103駅 7駆
地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの
取組を広く周知するとともに、取組の実現に向けて、関係機関が連携し重点支援

重点「道の駅」候補
地方整備局長等選定 78駅 2駆
地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの
関係機関が連携し、企画検討等を支援